

第2回海外留学報告

-春学期を終えて-

久野桃子

2025年7月



2024年8月から Purdue University（インディアナ州、米国）の Biological Sciences 博士課程に在籍しています。長く厳しい冬が終わり（3月頃）、博士課程進学後2学期目（春学期 1月上旬から5月中旬）を無事終了することができました。運転免許証を取得するなど米国での生活も楽しんでいきます。

春学期から夏学期の学校生活

1月からの春学期は、去年までの秋学期同様、授業、TA業務、ラボローテーションが生活の軸になっていました。春学期は5月中旬で終わり、学年暦としては夏学期になります。夏学期は、個人によりますが、私は Research credit のみで、履修する授業はなく、研究活動中心になりました。また、配属先の研究室で RA としての雇用となったので TA 業務はありません。

授業

International student が TA を務めるために必要な英語の授業（5 credit hour!）に加えて、微生物生理学、統計学、研究プレゼンテーションの授業を履修しました。

Teaching Assistant (TA)

学部生向けの基礎生物学の実験や Recitation クラスでの実験の説明や、質疑応答、講義の復習、などが主な業務内容です。勤務時間は週20時間ですが、勤務時間外にも準備や採点を行う必要がありました。秋学期と同じ科目の担当だったため、少しずつ学部生とのコミュニケーションにも慣れ、解説した方がいいポイントなどを掴めるようになったと感じました。ただ、授業担当講師が変わると授業科目は同じでも指導内容は変更されるので、秋学期と全く同じことの繰り返しというわけではありませんでした。履修する学生の数も秋学期に比べて増加し、担当する1クラスあたりの人数が約20人から40人になりました。

ラボローテーションと研究室配属

秋学期と春学期中に計3研究室でローテーションを行いました。そのなかの研究室で、博士課程進学前から興味を持っていた微生物学の研究室に、5月から正式に配属が決まりました。

研究活動

ラボローテーションの時はバイオインフォマティクスがメインの研究アプローチで実験室での実験作業はしていませんでしたが、配属が決まってからは実験も始めることになったので、研究室内の実験環境に慣れることに精一杯でした。尚且つ他の研究室メンバーとは異なる研究材料を対象としているので、メンター的なシニア学生・ポスドクが居ないのが配属したての頃は悩ましかったです。しかし、現在は、研究室メンバーからさまざまな研究対象について学ぶことができ、微生物現象に対して多角的な視野を獲得して独創的な研究に繋がられるとポジティブに感じています。



研究交流

Midwest Microbiome Symposium in Ohio

マイクロバイームを研究対象にしているアメリカ中東部の大学研究室の研究交流シンポジウムに参加・発表しました。このシンポジウムは毎年開催されており、今年は、5月に Ohio State University にて開催されました。私はラボローテーション中に行った光合成マイクロバイームに関する研究についてポスター発表を行いました。研究発表の場になることはもちろん、博士号取得後のキャリアについてなど、研究分野が近い異なる研究室の同世代の人たちと話すことができる場でした。

Project group meeting in Nebraska

現在私が参加している研究プロジェクトでは3つの大学がコラボレーションしています。毎年全研究室が集まり、各研究室の進捗・成果を共有し、今年度の研究予定、論文執筆予定などを集中的に話し合います。今年は6月に University of Nebraska で開催されました。私はプロジェクトに参加したばかりでしたが、自身もプレゼンテーションを行い、コラボレーション先から意見を頂戴することができました。プロジェクトの全体像や方向性を掴むことができる有意義な機会になりました。

2年目を迎えるにあたっての目標

自分主体で研究を進められるようにしたいと考えています。現在は研究の立ち上げ段階で、PIの研究戦略を理解し、教わることが多いですが、徐々に自分の視点で研究を展開できるようになりたいと考えています。また新しい経験、成果を報告したいと思います。